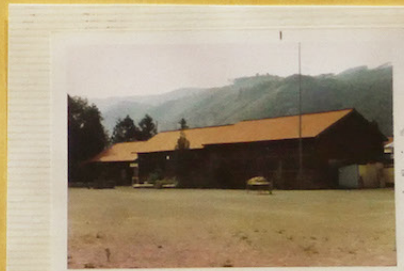


子どもたち

升沢に遊びに来て雪の上で遊ぶ孫たち。升沢分校は、昭和四十年代半ばから児童数が減り、平成五年に閉校となった。ふたんは離れてくらす孫たちも、正月や夏休みには升沢の祖父母のもとに遊びにやってくる。



升沢分校 旧木造校舎(住民所蔵 写真)



旧升沢分校校舎の「森の学習舎」の跡



町内小学校から子どもたちが校外学習にやってくる



高橋甚吾先生と子どもたち(住民所蔵 写真)



吉田小学校升沢分校の前身は、大正期に早坂園男家の屋敷内の堂舎を借り入れた升沢分校場になる。「じいちゃん先生」が授業に座り、まわりを回む子どもたちに、炬の灰に火着で字を書いて教えた。住み込みの先生のため、子どもたちは食器を洗い、米を研いで世話をしたという。

荒川の丸木橋を渡って通わねばならない下原の子どもたちは、川の増水で橋が流されたり、冬場に雪が深くになると通えなくなったり、炭焼きの手伝いで休むこともあり、山や川で遊びはうけてさぼることもあった。学校に行かずには山川で遊ぶことを、「山学校」「川学校」と呼んだ。

升沢の子どもたちが、小学校高等科や中学校に通うためには、山をおりて吉田など隣の農家に寄宿しなければならなかった。親元を離れ、登下校のあいまいに農家の手伝いをしながらの学生生活を送った。